

高等部3年1グループ 学習指導案

大阪府立和泉支援学校

T1 西野 恭平

T2 条 果林

T3 安井 賢三

T4 飯田 陽子

1. 日時 令和6年9月18日(水) 第5時限(13:20~14:10)

2. 場所 第3学年1組教室

3. 学部・学年・グループ 高等部 第3学年 1グループ 5名

4. 単元(題材)名 「おしごと(軽作業等)」

5. 単元(題材)目標

- ・必要な道具類の準備をして、軽作業を行っている。(知・技)
- ・決められた時間、集中して作業を続けている。(思・判・表)
- ・活動に見通しを持ち、意欲的に作業しようとしている。(学・人)

<和泉支援学校キャリアプランニングマトリックス>

- ・人と[意思表示]2段階① 困った時に助けを求めることができる。
- ・社会へ[情報への関心]3段階① 社会の様々な情報に触れ、興味・関心をもつ。
- ・社会へ[情報への関心]3段階② 働くことに関する取り組みを経験する。
- ・自分へ[目標設定]2段階① 目標を意識して活動しようとする。
- ・自分へ[振り返り・自己調整]2段階① 活動の振り返りができる。

6. 児童生徒観

本グループの生徒は男子生徒3名、女子生徒2名の計5名で構成されている。作業に見通しが立ったりコツをつかんだりすれば、集中して作業をし続けることができる生徒と、すぐに飽きてしまう生徒がいる。生徒たちは、全体説明より個別の説明で理解して行動できることが多い。卒業後は、福祉就労(就労継続支援B型あるいは生活介護)を希望している。障がいが重度であることから、就労に意欲を持ったり、自ら目標を立てて活動に取り組んだりすることは難しい。はじめての作業は見通しが立ちにくい、くり返し同じ作業に取り組むことで、より集中して取り組むことができる。

7. 教材観

それぞれの軽作業では、輪ゴムは色ごとにわけること、ダブルクリップは手指の巧緻性を高めること、タレピンはネジをまわすこと、ボールペンは部品の組み立てをすることに取り組む。練習すれば、ひとりで自立してできる作業、補助があればできる巧緻性の高い作業を組み合わせ、教材とした。分業できたり、補助を減らしたり、生徒の様子をみて、教材を工夫する。

8. 指導観

学校では、教員に補助してもらいながら作業をすることに慣れている。卒業後に向けて一人で自立して作業する力を身につけさせたい。さまざまな作業を経験することで適性を把握し、一人ひとりの伸ばせるところを見つけ、自信をつけさせて、就労を意識させる。この単元（1次）では、見本を示した後、一人で作業をするように促すが、単元（2次）では見本を示さずに、一人で作業ができるかまらずは見守り、必要に応じて見本を示すように努め、補助を減らせるようにしていく。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 必要な道具類の準備や片づけをしている。	① 決められた時間、集中して作業に取り組んでいる。 ② 「できました」の合図を出している。	① 活動に見通しを持ち、意欲的に作業しようとしている。 ② ふりかえりの中で、作業の成果物の数のシールを貼り、そのシールの数を数えることで、達成感を得ている。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全13時間、本時は第6時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1 ～ 3	・軽作業 (a). 輪ゴム (b). ダブルクリップ	(a). 輪ゴムを色ごとにわけ、4種類の輪ゴムをファスナー付ナイロン袋に入れてしめる。 (b). ダブルクリップを厚紙の決められた枠内に挟んだ後、金具をたおす。	・見本を示した後、一人で作業をするように促す。 ・輪ゴムの色や個数が違っている場合は、指差しを交え、指摘する。 ・厚紙の端からクリップどめするように促す。 ・「できました」の報告をしていない場合は、その都度言葉かけを行う。	・A① ・B①、② ・C①、②
	4 ～ 5	・軽作業 (c). タレビン (d). ボールペン	(c). ふたをクルクル回してしめる。 (d). ボールペンを組み立てる。	・作業の適性を見極める。 ・見本を示した後、作業するように促す。 ・「できました」の報告がない場合は、その都度言葉かけを行う。	・A① ・B①、② ・C①、②

	⑥ 本時 ～ 8	・軽作業 (a). 輪ゴム (c). タレビン or (d). ボールペン ※ (c) (d)は選択	(a). 輪ゴムを色ごとにわけ、4種類の輪ゴムをファスナー付ナイロン袋に入れてしめる。 (c). ふたをクルクル回してしめる。 (d). ボールペンを組み立てる。	・(c)(d)は、本人の能力や特性に合わせて、軽作業を選択する。 ・見本を示した後、一人で作業をするように促す。 ・「できました」の報告をしていない場合は、その都度言葉かけを行う。	・A① ・B①、② ・C①、②
2	9 ～ 13	・軽作業 (a)～(d)から 選択した作業を深める	(a). 輪ゴムを色ごとにわけ、4種類の輪ゴムをファスナー付ナイロン袋に入れてしめる。 (b). ダブルクリップを厚紙の決められた枠内に挟んだ後、金具をたおす。 (c). ふたをクルクル回してしめる。 (d). ボールペンを組み立てる。	・見本を示さずに、一人で作業ができるかまじく見守る。 ・慣れてきたら補助を減らす。 ・「できました」の報告をしていない場合は、その都度言葉かけを行う。	・A① ・B①、② ・C①、②

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・必要な道具の準備や片づけをする。(知・技)
- ・「できました」の合図を出す。(思・判・表)

(2) 本時の評価規準

- ・必要な作業の道具類の準備や片づけをしている。(知・技)
- ・「できました」の合図を出している。(思・判・表)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・タブレット型PC、ライトニング変換ケーブル、TV、タイマー
- ・輪ゴム、輪ゴム用下敷き
- ・タレビン、ボールペン

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

※省略※

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
5分 導入	・出勤状況の確認 ・名前ならべ	・お昼休みの間に、名札を動かすよう、言葉かけをする。 ・名前ならべがあっていたら、教員が名前を読み上げたり、名前を読むように伝えたあと、ハイタッチをする。 ・生徒Cに対しては、苗字のカードを最初に提示し完成した後、名前のカードを配る。	C①
10分 展開 ①	・ラジオ体操 ・ニュース	・体操前に、体を動かすことで仕事に集中しやすくなることを伝える。 ・大きくのびのびと体を動かすよう言葉かけをする。 ・ニュースを視聴後、ニュースの話題に、興味・関心をもったかどうか確認する。	
30分 展開 ②	軽作業 ・輪ゴム ・タレピン or ボールペン	・準備の際、必要に応じて準備物を一緒に取りに行ったり、見守ったりした後、道具が揃っているか確認する。 ・見本を示した後、一人で作業をするように促す。 ・「できました」を忘れている場合は、その都度言葉かけをする。 ・集中力が持続しなさそうなときは、「〇個したら休憩しよう」と見通し立てできる言葉かけをする。 ・タイマーが鳴った後、必要に応じて、一緒に、成果物をならべたり、数	A① B①、②

		えたりし、シールをふりかえりシートに貼るよう促す。 ・片づけの際、必要に応じて一緒に片づけに行ったり、見守ったりする。	
5分 ま と め	・ふりかえり	・ふりかえりシートのシールで、みんなの成果物の個数を確認した後、達成感を感じるように、拍手で称えあう。	・C②

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

